

6 卒業生・在校生関係者とのインターフェイス

学習院大学の社会的な評価をさらに高めるうえで重要なのは「学習院大学ファン」を増やすことです。「ファン」としてもっとも強く期待されるのが卒業生であり、在校生の父母などの関係者でしょう。卒業生・在校生関係者とのインターフェイスを工夫します。

(例、「ホームカミングディ」の制度化と授業公開の連携)

III 目白の杜のコミュニティ

7 入学試験制度の効率化による多様な志願者の拡大確保

目白の杜を自由で開放的な知のコミュニティにするために、多様なメンバーの参加を求めます。まずは地方出身者のメンバーの拡大確保です。入学試験制度の効率化の一方で、地方出身者の拡大を図ります。つぎに特定の地域に偏ることなく、世界各地からの留学生の受け入れ策を検討します。

(例、現行の入試制度の再編/地方出身者向け奨学金(住居費補助等)の新設などによる全国からの志願者の獲得)

8 学習支援センターの設置

—ワンストップの教育サービス—

自主的・積極的な学習を支援する体制を既存の組織の再編をとおして再確立します。いつでもすぐにワンストップで学習支援を得られる教育サービスの提供の実現をめざします。併せて図書館の情報化などの自学自習環境の整備を推進します。

(例、最先端の情報インフラの整備と図書館情報化とのリンク/自学自習環境の整備(図書館サービスの365日24時間化))(注:既存の組織の再編)

9 教育研究の評価システムの多様化とFDによる教育研究へのフィードバック)

(例、CAMPUS Visitの導入/FDの推進と成果の共有)

今日の教育研究は高度化・専門化・複雑化しており、単一の基準で評価することができません。そこでCAMPUS Visitのような外部評価を導入し、多様な評価システムによって知のコミュニティの柔構造を強化します。同時にたとえば1学部1名が・0.5コマの授業負担減の代わりにFD(Faculty Development)に専念し、その成果を全学で共有することなどによって、FDの充実を図ります。

10 キャンパスライフの四季のシンボル化

(例、日本の四季(端午の節句、七夕など)とともに学ぶことのよこびを表すシンボルゾーンをキャンパス内に)

大学で学ぶことの特別な意味の一つにキャンパスの四季を感じながら、学ぶことにあります。端午の節句や七夕などの日本の四季とともに学ぶよこびを表すシンボルゾーンをキャンパス内に設けます。このようなキャンパスは感受性を育むことにもなるでしょう。